



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

中東和平：イスラエルとパレスチナが最終地位交渉再開で合意

7月30日、米国のケリー国務長官は、国務省内で記者会見し、イスラエルとパレスチナが最終地位交渉を再開すると発表した。イスラエルとパレスチナの代表団は、29日から、国務省内で交渉継続について協議を開始していた。30日、両代表団は、2日目の協議の合間にホワイトハウスを訪問し、オバマ大統領と会談している。ケリー国務長官が、同日夕方に行った記者会見には、イスラエルのリブニ司法相、PLOのエラカート交渉局長が同席し、短いコメントを発表したが、交渉の内容については一切触れていない。

ケリー国務長官は、今後の協議について、最終地位交渉の中で議論されるすべての問題（国境画定、東エルサレム帰属問題、パレスチナ難民の扱い、イスラエルの安全保障問題）は机上に乗せられ、今後9カ月の間に合意を目指すとした。協議内容は秘密とされ、ケリー国務長官だけが、イスラエルとパレスチナの了解を得て、内容を公にするとした。同長官は、次回会合を、2週間以内に、イスラエルあるいはパレスチナ自治区で開催すると述べている。

なおケリー国務長官は、7月29日、イスラエル・パレスチナ交渉特使にマーティン・インディック元駐イスラエル大使を任命した。同特使は、29日夜の会合から協議に参加している。

## 評価

当面は、再開された交渉が順調に継続されるか、協議内容の秘密が維持できるかが焦点になる。協議内容がメディアに漏れ出し、交渉が短時間で中断する可能性はある。ケリー国務長官は、交渉期間を9カ月間とした。7月28日にイスラエル閣議が、パレスチナ人囚人の釈放を決定した際も、今後9カ月の間に段階的に釈放していくとした。9カ月の交渉期間設定の背景ははっきりしないが、2010年に交渉再開を働きかけた際、米国が示した交渉期間は1年だった。最終地位交渉の議論は、すでに最終段階にあり、合意到達までの期間として9カ月の時間枠を設定することは決して無謀ではないだろう。他方、交渉期間の設定に、米国内の政治日程（中間選挙など）が織り込まれているのであれば、9カ月の時間枠は、オバマ政権が中東和平問題解決のためにさける時間的制限を意味するかもしれない。その場合、2014年4月までに合意達成ができない場合、次の交渉再開は、次の政権が成立する2017年以降になるとオバマ政権が、イスラエルとパレスチナに圧力をかけている可能性もある。

（中島主席研究員）